逃走中 実況投稿 I N 俺得アニメ&ゲームキャラオールスター+ で逃走中!?

イグッチョ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

逃走中 実況投稿 IN 俺得アニメ&ゲームキャラクタースタ
ー+ で逃走中!?

【Nコード】

N5192R

【作者名】

イグツチヨ

【あらすじ】

ゆうやんさんの『俺得アニメ&ゲームキャラクターオールスター+で逃走中!?』とコラボ!ゆうやんさんの小説内で逃走者として参加しているイグツチヨがこの小説にその舞台裏の様子を実況投稿!別の視点から見た新訳『俺得アニメ&ゲームキャラクターオールスター+で逃走中!?』スタート!!

はじめに（前書き）

今までに前例の無いこの企画、果たしてうまくいくかどうか・・・

始めに

イグツチヨです。

今回、ゆうやんさんの小説、「俺得アニメ&ゲームキャラクターオールスター+」で逃走中!？」にて、

私、イグツチヨが逃走者として参加することになりました。

そこで折角なので「それに連動した小説を書いてみよう」と思いこの小説を書き始めました。

内容はいたって簡単、ゆうやんさんの小説に出ているイグツチヨが逃走中の様子をイグツチヨ自身からみた視点でツイッターのようにリアルタイムのようにこの小説サイトに投稿するというものです。

いままで前例の無いこの試みに協力いただいたゆうやんさん、本当にありがとうございます。この場を借りてお礼申し上げます。

はじめに（後書き）

よろしくお願いします。

プロローグ（前書き）

この視点はゆうやんさんの小説内でのイグツチヨの視点です。

プロローグ

先日、パソコンにゆうやんさんから一通メールが届きました。

内容は、「今度、大掛かりの逃走中を開くのであなたに逃走中同盟
枠から出場しませんか?」というもの、もちろん即答でOKの返事
を出しました。

そして逃走中当日、予選会の舞台となる平梅市に到着するとスタッ
フの案内でとあるホールの控え部屋に通されました。

すると1番乗りだったのか、部屋にも誰もいませんでした。

しかし、その数分後にDJ JUNさんとしょうつろさんがそして
そのすぐあとにワグナーさんとリリカルショーバイさんが部屋に
やってきました。

みなさんで談笑しながら自己紹介や小説の話をして6人目の作者さ
んと予選会の開始を待っていたのですがなぜか6人目が現れる前な
のに出番が、不思議に思いながら予選会の同じブロックの逃走者と
の顔合わせの会場に、自分も他の逃走者が誰なのかわからなかつた
ので舞台袖の幕の間からこっそりのぞくと、目の前にいきなり放課
後ティータイムのメンバーが、オリコン1位のガールズバンドを見
て正直気が動転しました。そのほかにも試験召喚システムを導入し
た事で注目を集めた最先端の進学校、文月学園の生徒も、他にもモ
デルからアイドルまでたくさんの方がいるのです。正直怖気付きそ
うになりました。

そうもしているうちに顔合わせが始まりました。

アナウンサーの紹介を元に1番目にワーグナーさんが、そして2番目にD・J・UNさんとリリカルショーバイさんが、そして3番目にしようたるうさんと自分がそれぞれ段にでて挨拶を済ませた。

そして自分たちも知らない6人目は、

文 「それでは最後の6人目を発表したいと思います。どうぞ！」

その声とともに6人目を探すが見つからない・・・

その時後ろのほうから誰かが入ってきた・・・というよりよく知っている人が入ってきた。

ゆうちゃん「そう！俺がゆうちゃんだ！」

その発言に一瞬思考が停止、そして

全員「エエエエエエエエ！！！」

同時に叫び声をあげた（もちろん自分も）

ワーグナーさんたちがゆうちゃんさんに話しかけているのを聞きながら（内容は「これってタブーじゃないの」「横で自分もつぶやいていた。」

イグツチヨ」「どうしてこうなった……」

美琴「あいつ……どこかで見た事あるのよね……」

律「確かに……」

御坂美琴さんと田井中律さんの会話を自分は聞き逃さなかった。

ふと周りを見てみると明らかに状況を理解していない逃走者たちが（その片隅ではなぜか吉井明久君が島田美波さんと姫路瑞希さんにぼこぼこにされていた）

そのあと、予選会のルール説明が始まった。

ルールは南エリアにある35個の宝箱の中に入っているカードを他の逃走者よりも早く見つけ出すというものそしてスタート地点に集まる逃走者たち、

そしてスタート前10秒のカウントダウンが始まる。

唯 「緊張してきた・・・」

憂 「がんばろうね！お姉ちゃん！」

平沢姉妹のそんな会話が聞こえる。

やよい 「うっうー！がんばるです！」

春香 「やよいは元気だね・・・」

高槻やよいさんと天海春香さんのやり取りが聞こえてくる。

8

明久「今度も賞金をゲットしてやるぞ！」
美波「負けてられないわね」

折檻から回復した吉井明久君と島田美波さんの会話が聞こえてくる。

10

7

当麻「今度こそ・・・」
インデックス「そんなにかりかりしたらよくないよ？」

上条当麻君とインデックスさんの会話が聞こえる。

6

桐乃「こんなの楽勝よ！絶対に一抜けしてやるんだから！」
黒猫「あなたにそれができるかしら？」

11

高坂桐乃さんと黒猫さんの会話が聞こえる。

5

ミク「前はダメだったので今回はがんばります・・・！
KAITO「リン、レンの分までがんばらないとね」

初音ミクさんとKAITOさんの意気込みが聞こえる。

4

リリカルショーバイ「ワグナーさんはもうこういうのは慣れているんですか？」

ワグナー「こういう大規模な予選ってのも何回かやったからね」

12

逃走中を知り尽くしているワグナーさんとリリカルショーバイさんの会話が聞こえる。

3

美琴 「今度こそ逃げ切つてやるんだから！」
黒子 「お姉さま・・・昨日からそればかりですわよ？」

御坂美琴さんと白井黒子さんのやり取りが聞こえる。

2

真鍋 「こういつのつて芸能人がやるものだと思っていたけど・・・
実際にやってみるとなんか緊張するわね」
律 「へー！和でも緊張する事あるんだー！」

真鍋和さんと田井中律さんの会話が聞こえる。

そして

ゆうちゃん「そう！俺がゆうちゃんだ！」
イグツチヨ「もう分かりましたから・・・」

ゆうちゃんさんの叫び声に突っ込みを入れたところで

0！

ゲームスタートと同時に50人の逃走者たちは平梅市に一斉に散らばって行った。

プロローグ（後書き）

何かスカスカな気もするけどとりあえず1話完成です。
普段書いている逃走中の小説とはまた違い不思議な感覚でした。

予選ステージ？

スタートとともにエリアに駆け出す逃走者たち、
それに続いて自分もエリアへと繰り出す。

とりあえず路地に入り小道に出る、するとその目の前に……

ゆうやん「こんなに速く見つけていいものなのか……絶対にこれ
文句言われそうだけど……」

カードを見つけ道端に座り込むゆうやんさんが。

お互いに目が合う

イグツチヨ「……………」
「……………」
ゆうやん「……………」

とりあえず見て見ぬ振りをしてその場を立ち去る。

イグツチヨ「これって本当に補正かかってないんですよね？」
「思わずスタッフに聞いてしまった。」

この予選ステージは平梅駅を中心としているエリア、平梅駅前では早くも宝箱を見つけた逃走者が何人か座り込んでいた。

とりあえず平梅駅前をあきらめワンダーランド付近の小道へそこへ向かう道にも宝箱を見つけた逃走者が何人か座り込んでいた。

イグツチヨ「多分こちら辺にありそうなんだけど・・・」

その時、目の前の植え込みに宝箱を発見、あけてみるとカードが。

イグツチヨ「よしっ！見つけた！」

ルール通りカードを見つけたのでその場に座り予選終了を待つ

途中、吉井明久君や平沢憂さんがカードを探しに来たがどうやら見つかっていないようだった。

路地のため、周りの様子がわからないけれども2人の話を聞くとほ

とんど見つけられてしまいどこにあるのかわからないとの事、おそらくあと十数個だと思いが誰が見つけていて、誰が見つけていないのかもよくわからない状態、あと少しだが誰が突破するかとても気になる。

予選ステージ？（後書き）

大体1話はこれくらいのペースで進みそうです。

予選ステージ？（前書き）

地震、知り合いが行方不明になっています。
場所は南三陸町、無事なのかな・・・

予選ステージ？

予選が終わるのをひたすら待っているイグツチヨ。

小道なので周りにはスタッフ以外誰もいない、

イグツチヨ「誰も来ないし、ほとんど何も聞こえない、もしかして予選もう終わってるんじゃないの？」

そんな不安を感じ始めたとき、

ピンポンパンポン

文「現在30名の逃走者が宝箱を見つけて残る宝箱は5個となりました。恐らくこの広いエリアからそれを見つけるのは無理だし時間かかるだろうと思うのでどこにあるかのヒントを教えたいと思います。感謝してくださいよ？」

うざいアナウンスがどこからとも無く流れてきた。

その内容は平梅城に2つ、堀川公園に1つ、オキナ通り商店街に1つ、ハイパーデパート前広場に1つというもの

イグツチヨ「今の時点で二十人いて、残った宝箱が5つだから・・・これ早々と見つけたのってラッキーだったんだ。」

正直、誰も来ないし何も聞こえないのでさびしくなりこの箱を見つけたことが間違いだったのではと思い始めた所だったが、今の放送を聞いて間違いではなかったと思い直した。

それから約20分後、

ピンポンパンポン

文「今、平梅市においてある35個の宝箱すべてが発見されました。これで予選は終了となります。」

イグツチヨ「やっと終わったか・・・」

長時間座り続けていたので腰が痛くなっていた。

文「この予選を通過された70人の逃走者はおめでとうございませーす！北ブロックの方々も聞こえていますかー？」

そういえば北ブロックも予選会をやったんだっけか

そんなことを考えながら体をほぐすためストレッチをはじめ。

文「一応これでこの予選は終わりなのですが、まさかそう簡単に本線進出できると思っっているのですか？」

この言葉が聞こえてくるまでは、

予選通過者「!?!」

文「そもそも『予選通過決定』とは言っていましたか誰も『本戦進出決定』とは言ってませんでしたしね」

その言葉と同時にスタッフのほうを見る自分、そしていつせいに顔をそらすスタッフたち。

文「というわけで今から予選（2ndステージ）を行いますよ〜！
ここで脱落するのは20人。つまり70人から50人に絞る戦いで
すね〜。これで予選通過となった逃走者は今度こそ晴れて本戦進出
できるので安心してくださいね〜」

正直、事の展開についていけない中予選2ndステージが行われる
ことになった。

予選ステージ？（後書き）

少し遅れてしまいましたすいませんでした。

予選2ndステージ？（前書き）

予選2ndステージに突入、

俺、本戦に行くこと出来るのかな？

予選2ndステージ？

文「まず予選通過者70人に連絡します。入手したカードは当然持っていますよね？」

そのアナウンスとともに自分は持っていたカードを確認する。

文「実はこのカード後ろが剥がせるようになってるんだよねー。それ剥がしてもらえるかな？」

カードの後ろを見ると確かにシールらしきものが張られている。薄々は気がついていただけでも本戦に進出できると思っっていて気にしてはいなかった。

早速シールを剥すと中からアルファベットがでかかど1文字印字されていた。

文「恐らくA～Nのどれかが書いてあると思われます。これが予選2ndにおいて大事な役割となっています。ではこれからその予選2ndステージのルールを説明していきますので注意して聞いて下さい。」

そしてそのルールは

まず予選1stステージにて獲得したカードの後ろにはアルファベットの文字が書いてある。

その文字によってAチーム、Bチームといった具合に逃走者を各5人の計14チームに分ける。

そして14チーム中4チームが全滅するまで自首不可能のサバイバル戦を行う。

4チーム全滅までこのゲームは行われ、その全滅したチームは全員強制失格となる。

生き残った10チームは本戦ステージへ無事に進出できる。

イグツチヨ「自分は・・・Mチームか」

ちなみにMチームは以下の五人なのだがお互いに誰が仲間なのか把握していない部分もある。

Mチーム 平沢唯、鈴木純、霧雨魔理沙、黒猫、イグツチヨ

文「そして予選敗退者30人に連絡します。もうあなた達は逃走中に参加できませんが賞金獲得のチャンスを与えることとします。」

予選敗退者へとルールの説明がされる。

今回の予選2ndステージで逃走者を追うには予選1stステージにて敗退した30名。

彼らは逃走者を1人捕まえることに1万円がもらえる。

また3分後には無差別で捕まえるハンターが3体平梅駅から投入され、それから1分ごとに1体ずつ投入されていく

予選敗退者、つまり追う側がそのハンターに捕まるとその人が今まで獲得した賞金は没収となる。

なおこの30人には「追う側」の目印として黒いマントを着てもらうこととなる。

文「では今から1分間の猶予を与えます。その間になるべく逃げてください」

早速逃げるために地図を確認する、しかし

イグツチヨ「あれっ!?ここって・・・確か第一回逃走中で中野梓さんが逃げ切った場所じゃなかったでしたっけ？」

その通り、イグツチヨが隠れているワンダーランド付近のこの小道、この場所は平梅市で行われた第一回大会で中野梓が逃げ切ったちょうどその場所である。

イグツチヨ「縁起が良いしこの場所から始めますか」

そのまま動かないことにした。

そして

1
0

9

8

4

6

7

0
!

1

2

3

逃走者狩りの始まりだ。

イグツチヨ「足には自身があるけどとりあえず隠れる。」

隠れて周りの様子を伺うすると・・・

明久「あの人・・・えっと確かイグツチヨさんがここら辺でクリアしてたんだ。」

瑞希「そうなんですか」

視線の先に吉井君と姫路さんの2人の予選敗退者が

瑞希「でもなんで明久君はそんなに必死になって捕まえようとしてるんですか？」

明久「もう前回の賞金使い切ったし逆にもうお金が無いんだ・・・もうさすがに塩と水だけの生活はこりこりだし・・・」

そんな会話をしながらも運よくこちらに気づかず離れていった。

イグツチヨ「・・・俺が本戦に進んでうまい具合に復活ミッションがあつたら吉井君を復活させにいかうかな・・・」

極貧生活の明久に自分は同情するしかなかった。

とその時、

ピンポンパンポン

イグツチヨ「まさか・・・もう捕まった人が居るって事!？」

いきなりの確保情報にMチームではないかと不安を感じる。

気になる確保情報は

文「Kチームの初春飾利が確保。残りKチームは4人となります!」。

「
イグツチヨ、「自分達じゃなくて別のチームか、初春さんには悪いけど助かった。」

とにかく他のチームが一人減ったので人数的に自分のチームが有利になった。

そしてその後も

文「Fチーム三千院ナギ、愛沢咲夜の二人が確保。残りFチームは3人になりまーす。」

「
文「Bチームピカチュウが確保。残りBチームは4人となりまーす。」

文「Dチーム工藤愛子が確保。残りDチームは4人となりますー。」

文「Aチーム高槻やよいが確保。残りAチームは4人となります。」

文「Hチーム如月千早が確保。残りHチームは4人となります。」

とその時計が三分経過、つまり平梅駅からハンターが放出されたということ。

と、その時

文「Gチーム琴吹紬と予選敗退者チーム初音ミク、がくつぽいどが確保、Gチームは残り4人、予選敗退者チームは残り28人となります。」

イグツチヨ「予選敗退者チームはハンターにしか捕まえられないからこれハンターが出たな。」

ハンターは1分に1体ずつ増え続ける。

「イグツチヨ、何とか逃げないとな」

自分で自分を奮い立たせる。

現時点での途中経過

Aチーム残り4人

Bチーム残り4人

Cチーム残り5人

Dチーム残り4人

Eチーム残り5人

Fチーム残り3人

Gチーム残り4人

Hチーム残り4人

Iチーム残り5人

Jチーム残り5人

Kチーム残り4人

Lチーム残り5人

Mチーム残り5人

Nチーム残り5人

予選敗退者チーム残り28人

全滅チームゼロ

予選2ndステージ？（後書き）

近々あるアニメ版「もしドラ」を楽しみにしています。

川島みなみ役の日笠陽子に期待。

加地誠の声がまさかバカテスの福原先生だとは・・・

確か加地って怒鳴るシーンがあったよな・・・なんかイメージがつきにくい。

予選2ndステージ？（前書き）

何とか更新、BSでの4月からのバカテス第一期再放送、楽しみで
す。

予選2ndステージ？

現時点で自分の居るチームMは奇跡的に無傷、

イグツチヨ、「とにかくここに隠れる」

隠れて時間を稼ぐことにした自分、奇跡的にここは大通りから死角になってるので入ってくる人はそんなに居ない。

イグツチヨ、「とにかくアドバンテージが出来れば有利なんだから、今は失礼な言い方だけどほかの人が捕まるのを待とう」

とにかく今は勝つことを考えて行動する。

その間もチームD、逃走中同盟のしょうたろうさんを始め

チームEゆうやんさん、

チームL木下秀吉君？

チームN宮永咲さんらが次々と確保された。

そして、

文「チームM平沢唯さん確保、チームMは残り4人ですー。」

イグツチヨ「一人捕まったか、とにかくまだ4人居るし平沢さんの分も頑張らないと」

そしてゲーム開始から6分がたち

文「チームD高坂京介確保によりチームDは全滅ですー。」

イグツチヨ「まだうちのチームは4人だしまだまだ大丈夫」

でも、

イグツチヨ「とにかくここにいっつ……!!」

ハンター「……!!」

ハンターに見つかった、

イグツチヨ「体力はあるしいける!!」

とにかく路地を使い距離を広げるが

曲がった先に別のハンター、

ハンター「……!!」

イグツチヨ「……!!」

2体のハンターに挟まれた。

イグツチヨ「ここまでか…！」

ポンツ！

イグツチヨ「あそこに居るとは・・・運が無いな」

これでチームMは残り三人

イグツチヨ「誰かはわからないけど残りの三人頑張ってくれ」

あとは3人に希望を託すしかない

現時点での途中経過

Aチーム残り3人

Bチーム残り2人

Cチーム残り3人

Dチーム残り0人
全滅

Eチーム残り3人

Fチーム残り1人

Gチーム残り3人

Hチーム残り2人

Iチーム残り2人

Jチーム残り3人

Kチーム残り2人

Lチーム残り3人

Mチーム残り3人

Nチーム残り3人

予選敗退者チーム残り18人

全滅チーム チームD

予選 2ndステージ? (後書き)

計画停電でほんとに不定期の更新です。

実況投稿は不定期ながらも更新していきますが波間に揺れる陰謀はしばらく休止してプロットを仕上げようかとも考えています。

予選2ndステージ？（前書き）

大変長らくお待たせしました。

完璧に俺得な小説ですがこちらも「波間」同様に更新を再開します。

ですが今回は尋常じゃないほどに短いです。

予選 2ndステージ？

ハンターの挟み撃ちで捕まってしまった自分、

南ブロックの牢獄である市民芸術館までやってきていたのだが…

イグツチヨ「凄い人数だなこれ…」

すでに南ブロックだけで数十人が捕まっている今回の予選、すでに牢獄がぎゅうぎゅう詰めになっている。

イグツチヨ「同じチームの人と会話したかったのにそんな余裕はなさそうだな…」

そんなことをつぶやきながら牢獄の少ない隙間に身を滑り込ませた。

その後同じチームだった黒猫さんが捕まってしまうチームMは残り2人となってしまった。

しかしそのあとは他のチームのメンバーが捕まった報告しか入らず

その間にチームFとチームHが全滅し脱落するのが残り1チームになった。

そして…

ピンポンパンポン

文「決着が着きました。これで最後の予選2nd敗退チームが決まります。」

この時点でチームMは残り2人なので脱落は無かった。

そして最後に捕まったのは、

文「Bチームの田井中律です。よってBチームはこの予選で敗退となります。」

文「これにより現在生き残ってる10チーム晴れて本戦進出となります。おめでとうございます。」

これで予選が終わり本戦に進むことになったのだが。

あんなに過酷になるとはその時は思いもしなかった…

予選 2ndステージ? (後書き)

ついに明日、けいおん!の映画前売りの発売ですね。

明日は映画館の開館前から並ぶつもりです。

本戦ステージが始まるまで（前書き）

この小説、実に半年振りの更新（前回の投稿日は4月28日）

凄く久しぶりだ…

本戦ステージが始まるまで

何とか予選ステージを勝ち上がった自分、平梅市から日本最大級のテーマパークとショッピングモールの複合施設「ドリームワールド」へと舞台を移すことになった……のだが。

イグツチヨ「おお〜！！このトレーラーひさしびりに見た！！」

平梅城へと戻った逃走者たちの目の前に現れたのはお台場編に登場した巨大牢獄トレーラー、正直逃走中ファンとしては実物を見れただけでも感動ものだ。

ピンポンパンポン

その時アナウンスが、

文「これより皆さんには本戦の会場に移動してもらいます。」

あの、射名丸さん…まさかこれに乗って行けと？

文「伝え忘れましたがこのトレーラーは敗退者専用の乗り物になり

ます。本戦進出者にはバスを用意していますので安心してください
ね。」

……よかった、くつろいで会場まで移動できる。

そして決勝進出者は大型バス二台に分乗、予選敗退者は牢獄トレー
ラー1台に搭乗することに。

イグツチヨ「……………」

座席に着いた自分の視線の先には予選敗退者の乗ったトレーラーが、
敗退者達がうらやましそうにこつちを見ている。

その様子を眺めていると横からもうひとつの顔がのぞきこんできた。

??「イグツチヨさんどうしたの？」

イグツチヨ「ん？ああ平沢さんが」

話しかけてきたのは予選で同じチームだった平沢唯さん、同世代と
いう事もあり牢獄の中で意気投合していたのだ。

窓の外を見ている間にいつの間にか隣の座席に座っていたようだ。

イグツチヨ「あそこにトレーラーがあるでしょ、あそこに乗ってる人たちに勝ったんだな」って思って、正直初めてのことだったからあんまり実感がなくて」

唯「私も初めて出た時はそうだったよ」緊張しててふわふわした感じ」

イグツチヨ「そっぴや平沢さんは今まで皆勤賞なんですよ」やっぱり連続で出てたりするとこの雰囲気見たいのになれちゃったりするの？」

唯「ううん、ぜんぜんこれで3回目だけど毎回出るたびに緊張しちゃう」

イグツチヨ「そうなんだ」

そんな会話をしているうちに自分達を乗せたバスが走り出した。だんだんとトレーラーに乗った人たちの姿が小さくなっていく。

イグツチヨ「……………」

唯「……………」

イグツチヨ「……………」

唯「……………」

唯「あゝるゝは」「」

イグツチヨ「歌うにしてもそれはやめてっ！！それ以上は今日の前に見える光景とかこの小説の存続とかいろいろな意味でアウトになりそうだからっ！！！」

勝者を乗せた2台のバスはにぎやかに次の会場へと向かっていった。

そしてその日の夜、といっても深夜宿泊先のホテルへ到着。

そのホテルで同室になったのは…

イグツチヨ「改めてですが招待してくださりありがとうございます
！」

ゆうちゃん「いやいやこちらこそ招待を受けてくださってありがとうございます
ございます」

イグツチヨ「それにしてもまさか新参者の自分がワーグナーさんた
ちと同室になるとは…」

ワーグナー「そんなにかたくならないですよ、やりづらいし」

大先輩のゆうちゃんとワーグナーさんだ。

挨拶の後は明日の本戦に備えて作戦会議が行われた。
作戦を話し合う2人は逃走中を知り尽くしているだけあって自分が
舌を巻くばかりだった。

逃走中同盟として参加する以上、明日はふがない結果を出さない

ように思わなくては...
改めてそう思った。

本戦ステージが始まるまで（後書き）

いやはや、まさかここまで間が開いてしまつとは…

次は「波間」ですね。出来るだけ早く更新できるよう頑張ります！！

それにしてもゆうやんさんとワグナーさんの会話、これでいいの
だろうか…

知らないうちにお二方に失礼なことを書いてないか少し心配です。

そっいやこの話の中で唯が歌いかけた曲、タイトルと止めた意味分
かりますよね？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5192r/>

逃走中 実況投稿 IN 俺得アニメ&ゲームキャラオールスター+ で逃走

2011年11月16日11時49分発行